

## (4) 学校教育学部

## ② 教務関係

教務委員会における、運営・活動の状況や優れた点及び今後の検討課題等については下記のとおりである。

## ア 運営・活動の状況

## i) 委員会等の開催状況

令和元年度においては、教務委員会を15回開催した。

## ii) 審議された主な事項

学部の教務に関する主な審議事項は、以下のとおりである。

- 1) 令和元年度卒業判定
- 2) 令和元年度転専修・コース判定及び専修・コース分け
- 3) 令和元年度学部1年次生及び3年次生の進級判定
- 4) 令和元年度前・後期学部再試験の実施・評価
- 5) 令和元年度科目等履修生、特別聴講学生の受入れ等
- 6) 令和元年度学年暦
- 7) 令和元年度開設授業科目・授業時間割
- 8) 令和元年度非常勤講師担当授業科目
- 9) 令和元年度ティーチング・アシスタント等の実施計画
- 10) 令和元年度授業時間割の編成方針の整備
- 11) 令和元年度副専攻プログラム受講者選抜日程
- 12) 社会教育主事養成課程に係る省令等改正に伴う対応
- 13) SOGIEに関する対応ガイドライン
- 14) 高等教育の修学支援新制度に関する機関要件（厳格な成績管理の実施・公表）に係る出席率の取扱い
- 15) アクティブ・ラーニング対応教室の整備
- 16) 授業出席状況把握システムの拡充
- 17) 教務関係学内規則の制定・改廃
- 18) 令和元年度年度計画及び自己点検・評価
- 19) 新型コロナウイルスに感染した場合の授業対応について

## iii) 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

令和元年度からの大学改革に基づく学部の教育課程全般をはじめ、副専攻プログラム（小学校英語副専攻プログラム及び小学校プログラミング・テクノロジー副専攻プログラム）の運用を行った。

また、社会教育主事養成課程に係る省令等改正に伴う対応、SOGIEに関する対応ガイドライン原案の作成、高等教育の修学支援新制度に関する期間要件（厳格な成績管理の実施・公表）に係る出席率の取扱い等新たな制度等に対応するための規程等整備をおこなった。

あわせて、平成29年3月22日（水）にカリキュラム企画運営会議で決定した「アクティブ・ラーニングを取り入れるための方針」に基づき、グループディスカッションや個別発表ができるよう、人文棟中小講義室のAV機器のデジタル化等、講義室の教育環境を引き続き整備した。

## イ 優れた点及び今後の検討課題等

### i) 優れた点

令和元年度からの大学改革に基づく学部の教育課程全般をはじめ、副専攻プログラム（小学校英語副専攻プログラム及び小学校プログラミング・テクノロジー副専攻プログラム）の運用を行った。

また、社会教育主事養成課程に係る省令等改正に伴う対応、SOGIE に関する対応ガイドライン原案の作成、高等教育の修学支援新制度に関する期間要件（厳格な成績管理の実施・公表）に係る出席率の取扱い等新たな制度等に対応するための規程等整備をおこなった。

あわせて、ティーチング・アシスタント、ティーチング・サポーター及びリサーチ・アシスタントを担う学生を対象に、授業におけるアクティブ・ラーニングの実践をサポートするための理解を深める研修として、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会と連携して、令和元年度は、アクティブ・ラーニング型授業におけるT A・T Sの活用事例をテーマとして、ワークショップ形式によるFD研修会を令和2年1月15日に実施した。

### ii) 今後の検討課題

- ・アクティブ・ラーニングに対応した講義室の教育環境整備
- ・令和4（2022）年度大学改革に伴う、教務関連事項の対応
- ・高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応
- ・SOGIE 等多様な学生への授業対応
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の実施